

# 荻窪病院だより



林 量司 内視鏡センター長  
消化器内科医長

## 進行がんになる前に 内視鏡でその可能性を防ぎたい。 消化器内科医の願いです。



日本での患者数は年々増え、女性の死因第1位になってきている大腸がん。大腸内視鏡(大腸カメラ)を定期的に行えば、大腸がんは防げると言われていますが、検査に抵抗がある人が多いのも事実。内視鏡センター長の林医師に、大腸ごと内視鏡検査について話を聞きました。

### 大腸カメラを行えば 大腸がんは防げますか？

かなりの確率で進行がんを抑えられると現状では考えられており、僕もそう思っています。大腸がんが増えている今、外科的な手術になる前に早めに病変を見つけ、患者さんの身体への負担が少な

い内視鏡での治療ですませることが、消化器内科医の望むところなんです。便秘や下血などの症状が出る前に「大腸がん検診」などをうまく利用して、検査を受けて頂きたいですね。

### 検便で出血が見つかったら 「大腸カメラを」と言われますね。 検査は痛いんでしょうか？

事前に下剤を飲んで腸を空にし、検査自体は15分程度ですが、腸には個人差があり、また医師の技量による差も大きい検査だと言えます。内視鏡センターの医師みんなで切磋琢磨し、腕を上げるように努めています。

地域のクリニックさん、住民の方々の信頼と「痛くない」という評判を得て、内視鏡検査の件数を上げることそれが進行がんを防ぐことにつながると考えます。

### 検査でポリープが見つかったら、 どうなりますか？

ポリープのすべてががんになるわけではないのですが、5ミリ以上なのは切除します。そして1年後に大きな変化がないかを検査します。当院では、後日に入院していただきEMRという切除術を行います。また早期がん



別館1階の内視鏡センター。年間9000件を超える検査を行う。林センター長には開業医様からの指名も多い。

だった場合はESDという高度な切除術も行います。どちらも内視鏡で行う治療で、前者は1泊2日、後者は1週間の入院ですみます。

### 必ず大腸カメラを受けたほうがいい ケースがあれば教えてください

急な便秘と腹部膨満感・長引く下痢・下血は必ず受診が必要です。家族に大腸がんの人がいる場合も受けたほうがいいですね。また検便で問題がなかったから受けなくてもいい、ということではないんです。50代になったら1回は検査をして、医師のフォローを受ける。すると大腸がんになるリスクは限りなく低くなります。たとえ家族歴があっても「検査を受け、医師の説明に従う」この繰り返しを行えば、大腸がんは防げます。ぜひかかりつけの先生に、検査についての相談をして頂ければと思います。

荻窪病院は  
地域医療に  
貢献します

#### 理念

患者さんへ安心で信頼される医療を提供します。  
職員へやり甲斐のある仕事と豊かな生活の場を提供します。

#### 基本方針

- 1.急性期医療に全力で取り組み、地域社会に貢献します。
- 2.個人の権利を尊重し、相互信頼に基づいた患者さん中心の医療を提供します。
- 3.豊かな人間性と優れた技能を有する医療人の育成に努め、活力のある病院づくりをします。
- 4.経営の健全化に努め、質の高い医療を地域に提供し続けます。

「みんなの健康講座  
杉並公会堂」に  
ぜひお越しください

荻窪駅北口から徒歩5分の杉並公会堂で、「みんなの健康講座」のスペシャル版を行います。

- 日にち 5月27日(土)
- 時間 10時～16時  
(開場9時半予定)
- 定員 先着190名様 無料

心臓疾患や膝関節、前立腺、痔の症状について当院の医師がわかりやすくお話しをいたします。また杉並区歯科医師会・細見洋泰会長から義歯の上手な使用方法についての講演もごさいます。

皆様お誘い合わせの上、ぜひお越しくださいませ。



前回の「みんなの健康講座 in 杉並公会堂」。詳細は病院HPをご覧ください

中野区の先生方と  
病診連携の会を  
行いました

当院は区西部医療圏（新宿区・中野区・杉並区）の200床以上の病院としては最北西に位置します。この度、中野区医師会様のご協力を得て、中野区の先生方に当院の医療をご紹介する連携の会が行われました。村井病院長始め、7診療科8名の医師より対応疾患症例や緊急受け入れについてご説明



右…24時間対応の心臓血管センター・澤センター長  
上…荻窪病院のビジョンを説明する村井病院長

し、多くの診療所の先生より、「西にも頼りになる病院があった」とのお声を頂戴しました。そのご期待に沿うよう、さらに医療の質を高め、急性期病院として病診連携を広めて参ります。

いつか来るその時のために  
春の災害訓練へのご協力  
ありがとうございました

4月22日(土)に災害訓練を実施しました。「東京湾北部震源 杉並区震度6弱」を想定し、災害対策

本部の設置から受傷者の受け入れ、他院からの重症者搬送等を行いました。今回は今川町親和会様に患者様役として、また中央大学杉並高等学校の生徒さん達にも搬送や患者様役としてご協力頂きました。東京都災害拠点病院である当院は、大規模災害訓練を年に2回行っています。非常時にその役割をしっかりと果たせるよう、地域の皆様と一緒に訓練を重ねてまいります。



左…搬送中の中央大学杉並高等学校の生徒さん達 下…患者様役をして頂いた今川町親和会様



常に探求心を忘れずに！  
院内研究発表会で  
4題を選出

医療人としての視点を育て、知識向上を図るため当院では毎年研究発表会を行っています。今年4月18日(火)に、各部署が1年をかけて取り組んできた研究事例を発表しました。新規性・独自性・有用性、そして発表の仕方にも評価を置き高得点を果たした4題が6月に行われるセコム提携病院合同研究発表会に臨みます。

研究発表会の様子



①リハビリテーション室

「嚥下造影検査(VF)の活用により非経口摂取から経口摂取へ移行した事例」

②看護部 3A病棟

「腹腔鏡下手術における周手術期低体温予防への取り組み～電気毛布を用いた術前加温を試みて～」

③看護部 4A病棟

「内服に関するインシデント減少に向けて」

④メディカルアシスタント室

「対応力向上に向けての取り組み～2016年度接遇係の取り組みと評価～」

